

第6回 防衛施設整備に関する有識者会議
議 事 概 要

1 日時等

- (1) 日 時：令和4年3月7日（月）13時30分～15時30分
- (2) 場 所：防衛省庁舎E2棟5階 第504－505会議室
- (3) 出席者：

【委 員】

- 藤井 聡 （京都大学大学院工学研究科教授） [会長]
- 上野 武 （千葉大学名誉教授） [会長代理]
- 谷口 綾子 （筑波大学大学院システム情報工学研究科教授）
- 成田 一郎 （(公社)日本ファシリティマネジメント協会専務理事）
- 横田 弘 （北海道大学名誉教授）

【防衛省】

整備計画局長、大臣官房施設監、施設計画課長、施設整備官
提供施設計画官、施設技術管理官、施設政策室長、防護施設研究室長

2 議 題

自衛隊施設の特異性を踏まえたファシリティマネジメントの確立に向けて

3 議事概要

- (1) 冒頭、整備計画局長の挨拶
- (2) 自衛隊施設の特異性を踏まえたファシリティマネジメントの確立について、防衛省から説明した後、討議を実施

4 討議概要

(委員) ファシリティマネジメント（以下、「FM」という。）を進めていくためには、現状把握が一番重要であり、施設の現状がわかるデータを共有することが必要。データベース化を進めているということだが、もう少しスピードアップが必要

(委員) 武力攻撃に対する抗たん性に関しては、土木、建築学的な抗たん性の議論だけでなく、装備品がどれだけ配備されているかが重要な要素。自然災害に関しては、装備、施設、部隊等も含めた防衛システムの強靱性を考慮した優先順位を考える、という視点が、「防衛施設の特殊性」の「概念の根幹」と考える。

(防衛) 防衛システム全体の中で施設の重要性を考慮し、優先順位をつけて災害に対する施設の強靱化を図っていく。

(委員) ハード面でどんな施設がどの程度の規模なのか、早急に全体像を把握する必要がある。ハードだけでなくソフト面に関しても、使用感や満足度なども聞き取り、ソフト・ハード両面からの把握が必要。

F Mを普及させるためには関係者への教育が必要。

(防衛) 耐震なども含めて全体像をきちんと把握しなければならない。優先的にやらなければならない場所を、しっかり選別してやっていく必要がある。

(委員) 老朽化というゆっくりやってくる事象と、津波といういつやってくるか分からない事象に対して、防衛システム全体として自衛隊がどう抗たん性を保つかが重要。

(委員) 防衛システム全体の中で重要施設に「クリティカル・インフラストラクチャー」と銘を打っておく。F Mの中で、重要施設を認識していけば、質的なものと量的なものがしっかり融合できる。機能ベースで定量的に評価していくことが重要。

なお、防災行政は想定外力を一つ決めてそれに対応するもの、強靱化はすべてのリスクに対してたくましく生き残るという考え。すべての想定外力に対して、その損害の総和が最小となるようにする考え方。防衛システムを一つの有機体としてとらえ、それが成長していくという概念を持つ思想が必要。

(防衛) 自衛隊施設の中に「収まっている」防衛力の機能がどれくらい確保さ

れるのかということに着目し、施設が守っている機能がどれくらい低下するかを適切に評価することが重要と認識。

強靱化対策をして、その後、やらなければいけないことが出てくれば、そこを手当てする。そういう形で施設のレベルを上げていく。二者択一の話ではなく、両立させていくものと理解。

以 上